

よりそう集い場

～まち、ひと、樹をつなぐ～



「地形」に寄り添う

公園の起伏へふわりと被せた、しなやかで存在感のある大屋根。
地形と対話しながら、新たな拠り所としての強度と優しさを、シンプルな形状で提案します。

「人」に寄り添う

切妻屋根の形状を活かし、天井の高い空間には多くの人が集う集会場を、低くなる空間は小さな居場所を計画します。
低くなる屋根の傾斜に沿って、視線の向こうに公園の地形がつながっていき、公園の木々や地形を感じることができます。



北立面図

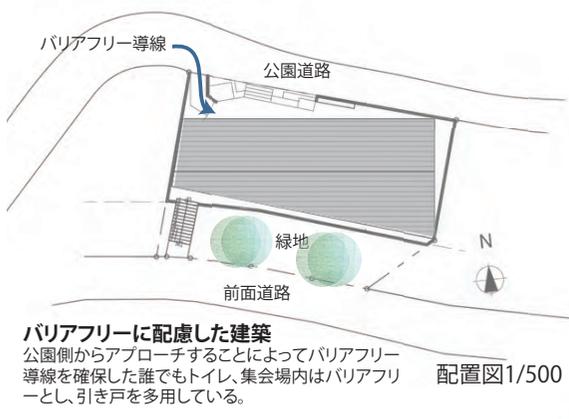
東立面図

南立面図



シンプルな建築

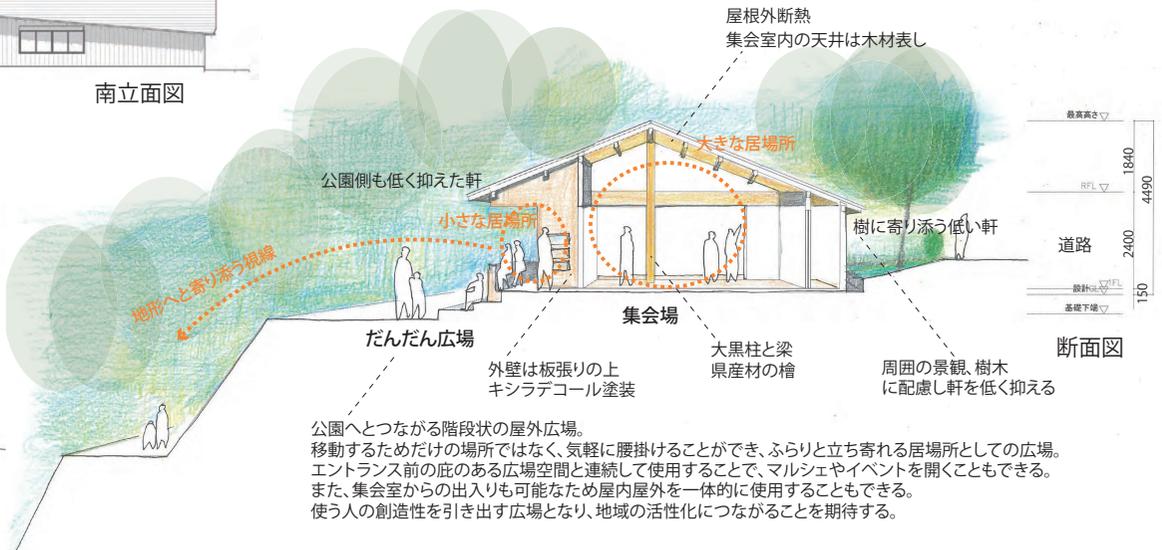
切妻屋根を一部伸ばしたシンプルな屋根とした
落ち葉の堆積、予算面などを考慮した。
また、デザイン的にも周囲になじむ設計とした。



バリアフリーに配慮した建築

公園側からアプローチすることによってバリアフリー
導線を確保した誰でもトイレ、集会場内はバリアフ
リーとし、引き戸を多用している。

配置図 1/500



屋根外断熱
集会室内の天井は木材表し

大きな居場所

公園側も低く抑えた軒

小さな居場所

樹に寄り添う低い軒

だんだん広場

集会場

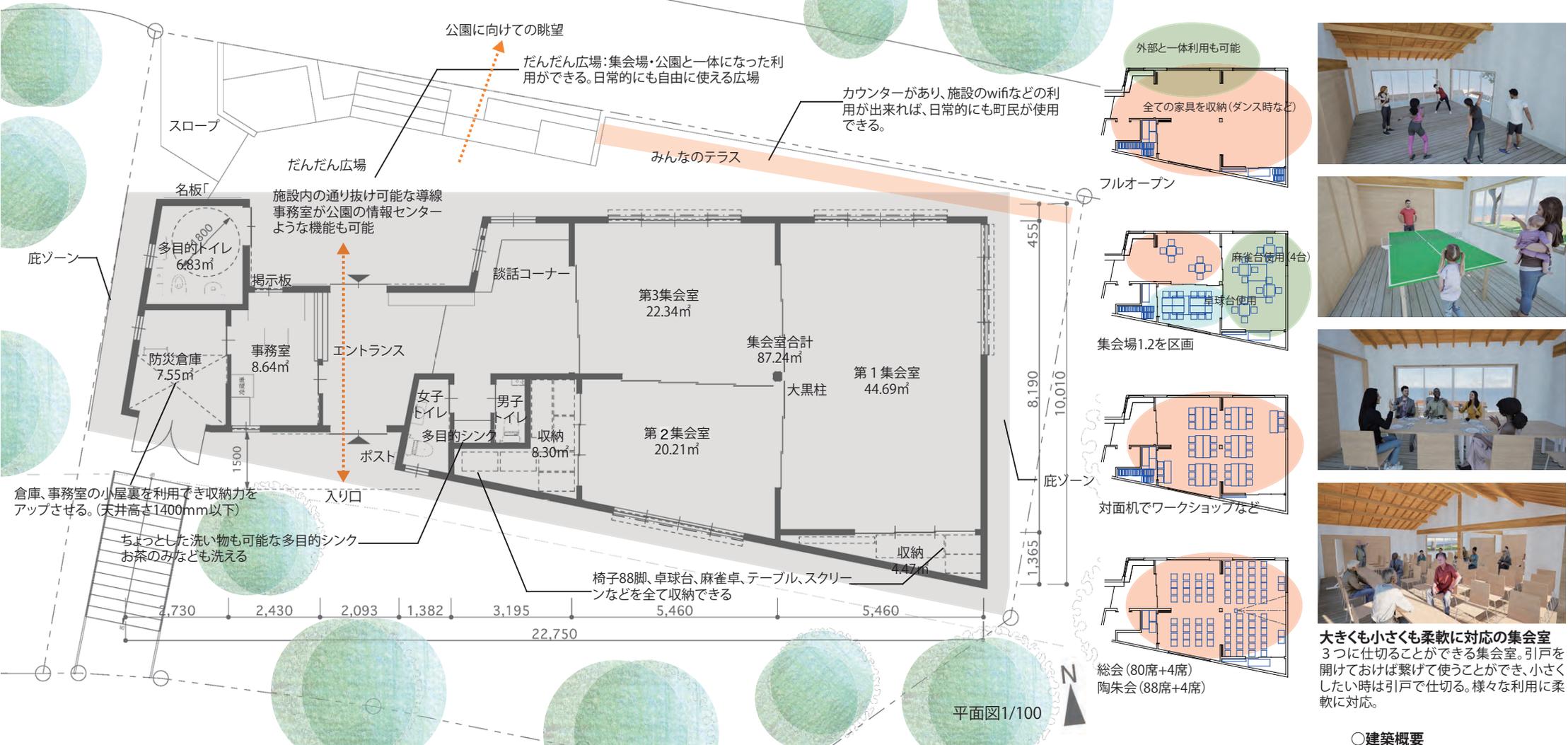
外壁は板張りの上
キンラデコール塗装

大黒柱と梁
県産材の檜

周囲の景観、樹木
に配慮し軒を低く抑える

断面図

公園へとつながる階段状の屋外広場。
移動するための場所ではなく、気軽に腰掛けることができ、ふらりと立ち寄れる居場所としての広場。
エントランス前の底のある広場空間と連続して使用することで、マルシェやイベントを開くこともできる。
また、集会室からの出入りも可能なため屋内屋外を一体的に使用することもできる。
使う人の創造性を引き出す広場となり、地域の活性化につながることを期待する。



大きくも小さくも柔軟に対応の集会室
 3つに仕切ることができる集会室。引戸を開けておけば繋げて使うことができ、小さくしたい時は引戸で仕切る。様々な利用に柔軟に対応。

○**建築概要**
 用途地域: 第1種低層住居専用地域
 容積率: 80%・建蔽率: 40%
 防火地域: 無指定
 敷地面積: 402.73m²
 建築面積: 160.99m²(39.97%)
 1階床面積: 150.75m²
 延床面積: 150.75m²
 45.45坪(37.31%)

○**概算事業費**
 一般的な工法、規格製品の使用、シンプルな屋根形状で経済性に考慮

建築本体工事	2700万円
水道・設備工事	480万円
電気・空調工事	510万円
設計料	400万円
上記消費税	409万円
合計	4499万円



小さな居場所としての談話コーナー
 公園へと視線のつながる、身体スケールの居場所。屋根の勾配を活かし、低い場所に計画することで、大きな集会室とはまた違った時間の過ごし方ができる。屋内でありながら、屋外の気配を感じられる居場所。集会室3と隣り合っており、引戸を開けたままで使用すれば、集会室3と一体的に使用することもできる。



断熱性・安全性に配慮した建築・開口部
 規格断熱アルミサッシで、ペアガラス、シャッター付。換気は換気扇とし、自然換気を有効利用。網戸も設置。空調はヒートポンプエアコン(一般エアコン)。給湯は電気式湯沸かし器。設備はメンテナンスが容易でコストバランスに優れたものを使用。省エネ計画は断熱等級5を確保する。一般的な断熱等級4よりも20%の省エネになる。



木質を多く使用した構造・内装
 集会室中心にあえて大黒柱を設け一般的スパンとし省コストにすると同時に、意匠的にも特徴を持たせた。小屋組も特殊な工法を用いずに、母屋と垂木で構成し、母屋垂木を見せることによって意匠に貢献している。床はフローリング、壁と天井は板張りとし一部ビニールクロス貼り。構造計画は耐震等級3、在来木造工法。



県産材を活かした外装・内装
 外壁は県産材の板張りとし、その上にキシラデコール塗装とする。屋根はガルバリウム鋼板とし、スタイロフォームで外断熱する。木材で内装も行い神奈川県まちのもり創出事業補助金(R6予定)も申請の予定